

愛媛大心臓移植施設に

全国で12四国初登録

脳死した人から提供された心臓の移植を行う施設に、新たに愛媛大が加わる
ことが28日分かった。心臓移植施設は全国で計12施設となり、四国では初めて。

日本臓器移植ネットワークによると、移植施設になるには、日本医学会の移植関係学会合同委員会での選定を経て、移植ネットが登録する必要がある。移植ネットは3月21日付で登録した。愛媛大は現在、移植のためのシステムの導入や、書類提出などの手続きを進め、準備が整い次第、稼働を始めるという。移植チームを統括する愛媛大大学院医学系研究科心臓血管・呼吸器外科学の泉

谷裕則教授(62)によると、これまで県内で心臓移植を待つ患者は大阪府で手術を受けていた。患者からは県内での手術を希望する声があり、執刀医や看護師などスタッフ確保に向け関係部署と調整をしてきた。

泉谷教授は「愛媛で移植を受けたいという患者さんの声にずっと応えたかったのでうれしく思う。患者さん本人や家族の負担軽減につながる」と話した。

愛媛大はこれまでに腎臓と肝臓の移植施設に登録されている。